

講義名	国際経営論				授業形態	
担当教員	今西 珠美	開講期・曜日・時間		後期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング

主題と概要
主題：国境をまたいで活躍する多国籍企業の歴史・主要理論・経営の諸相について総合的に学びます。 概要：海外進出を図り複数の国々で事業を展開したり、外国企業と共同で事業を行ったりする企業は増えています。本科目ではこのような企業の国際経営活動に関する基本的知識を修得し、マーケティング、生産、研究開発、人的資源管理などの諸相における主要理論を理解します。 将来、国際的な視野に立って社会に貢献できるような人材になるための能力を身につけます。

到達目標
一国内で活動する企業と複数の国々で活動する企業の違いを知り、グローバルに事業を展開する多国籍企業の国際経営の複雑性について理解できるようになります。

提出課題
随時、課題を提示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
授業時や解答例を提示する際に講評します。 RYUKA Portal のレポート提出機能のコメント欄を使用して個別に対応することもあります。

評価の基準
学習成果（理解度）と学習意欲を評価します。 出欠はとらず、定期試験および提出課題の内容、理解度、取り組み姿勢を評価します。 定期試験（60％）、提出課題（30％）、学習意欲・学習態度（10％）を予定しています。

履修にあたっての注意・助言他
①この講・限の受講対象は人間社会学部生です。 ②教科書は必須です。教科書に沿って授業を進めます。授業時には手元にあるようにしてください。 ③課題は提出回数だけでなく、その内容も重要です。 ④受講、課題の作成・提出にも礼儀があります。

教科書
『はじめての国際経営』、中川功一・林正・多田和美・大木清弘、有斐閣（有斐閣ストゥディオ）1980、9784641150171

参考図書
なし。

その他
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年。 浅川和宏・大田清弘・山口晋也・内田康郎監修、多国籍企業学会編『未来の多国籍企業』文真堂、2020年。 井上真理編『グラフィック グローバル・ビジネス』新世社、2020年。 江夏健一・松名義時編『理論とケースで学ぶ国際ビジネス（第4版）』同文館出版、2018年。 大木清弘『コア・テキスト 国際経営』新世社、2017年。 安室圭一監修、古沢昌之・山口隆英編『安室圭一の国際ビジネス入門』白桃書房、2019年。 吉原英樹編『国際経営への招待』有斐閣（有斐閣ブックス）、2002年。 吉原英樹『国際経営（第5版）』有斐閣（有斐閣アルマ）、2021年。

授業計画
1 国際経営とは何か 2 海外直接投資の理論 3 多国籍企業による国際競争の歴史 4 多国籍企業の組織デザイン 5 トランスナショナル経営 6 海外子会社の経営 7 国際マーケティング 8 国際マーケティングの事例研究 9 ものづくりの国際拠点展開 10 研究開発の国際化 11 国際的な人的資源管理 12 国際的な人的資源管理の事例研究 13 国際パートナーシップ 14 日本企業のさらなる国際化のために 15 総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）
ア：PBL（課題解決型学習）イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ウ：ディスカッション、ディベートエ：グループワーク オ：プレゼンテーションカ：実習、フィールドワーク キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
①授業の予習（約120分） 教科書の該当章を読んで授業に臨んでください。 事前に読むべき章は、授業計画に記載の各授業回のテーマと教科書の章タイトルを照合してください。 事前研究を行う授業回があり、途中から授業回と章番号にズレが生じます。 そのため、授業回と予習する教科書の章番号（各回1章分）は具体的に次のようになります。 授業1～7回は教科書1～7章、8回は47章、9～11回は8～10章、12回は10章、13～14回は11～12章です。 ②授業の復習（約120分） 授業でキーワードを提示しますので、各々の内容確認を入念に行ってください。 さらに、それらの相互関連性を考えることによってその回の授業全体の理解を深めてください。 その他に記載している参考文献の利用も推奨します。自ら進んで調べ理解度を高めましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
当科目を学ぶことによって、事業の仕組みや経営構造、組織行動について経営理論に基づき、自ら考え、理解する能力が身につきます。特にグローバルな側面に焦点を当てる科目であることから、国際的な視点に立って、企業や組織がグローバルに事業を展開する上で直面する現状と課題を分析し、その解決策やさらなる発展をもたらすための新たな価値を作り出す想像力と提案力を身につけることができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
ポータルシステムを使って課題の提出や確認を行う予定です。また、授業時間内だけでなく、ポータルのレポート提出機能にあるコメント欄も活用して質問や意見を受け付けるなど、コミュニケーションを回っていきたいと思います。

実務経験の有無及び活用
実務経験なし

備考